

令和 6 年度第 4 回神戸市歯科口腔保健推進懇話会 議事要旨

1. 日 時：令和 7 年 3 月 11 日（火）13:29～14:46
2. 場 所：市役所 1 号館 14 階大会議室（WEB 併用）
3. 参加者：（現地）天野会長、足立委員、神谷委員、高橋委員、竹中委員、田中委員、
橋本委員、丸山委員、百瀬委員、吉田委員
（WEB）伊藤委員、土居委員、西委員（全て 50 音順）
（代理）松木委員代理（近藤委員）

4. 局長挨拶

臨時の懇話会で 3 回にわたって議論いただいた「小学校でのフッ化物洗口の全校展開」の令和 7 年度予算は確保ができた。神戸市として初めて健康格差の是正と健康寿命の延伸に取り組む大きな第一歩となる。

本日の議題は、災害時歯科保健対策についてである。今年は阪神・淡路大震災後 30 年の節目の年で、全市で災害対策の総点検を行った。我々も、なぎさ中学校での救護所設置訓練、トリアージ訓練とあわせてスターリンク（通信機器）のテストを実施した。それらの課題と結果をふまえ南海トラフ地震への対策をとっていく。忌憚のないご意見をいただきたい。

5. 議 題

議題 1 災害時歯科保健対策について

事務局より、資料「災害時の医療提供体制の確保に向けた神戸市の取り組み」および資料 1－1「中央区との合同防災訓練の実施概要」を説明

委員より、検討会会長として、資料 1－2「中央区との合同防災訓練の検証」、資料 1－3「災害時対応への準備の強化」、「令和 6 年度第 2 回神戸市歯科口腔保健推進検討会議事要旨」について、検討会での議論内容を説明

委員：令和 7 年 2 月 25 日の検討会にて、2 月 8 日の合同訓練をふまえた課題を神戸市歯科医師会と中央区歯科医師会から抽出していただいた。

BCP（事業継続計画）が決定されていないので課題である、三師会との協定に従いうまく連携が図れるかが不安である。さらに歯科衛生士の人材について、兵庫県歯科衛生士会は県歯科医師と協定があるが、神戸市歯科医師会とはないのでいかに連携するかが課題である。そして歯科用医薬品の提供や中央区の歯科用機材の確保や運搬について課題があるとのことであった。

それらを踏まえ各委員で検討したところ、夜や早朝に発災の場合、住居と診療所が別の場合すぐ集まることができない不安要素がある。長田区では、市民フォーラムが毎年開催され、災害時の医療介護提供協議会が月 2 回開催されており、機動力があるのではないかと話であった。連絡がとれないことに備え長田区役所に集合が決められている。東灘区は歯科用品や機材、医薬品の備蓄をしている説明をされた。県歯科衛生士会は平成 28 年に件歯科医師会と協定を締結し、行動指針をまとめている。日本歯科衛生士会は 50 名弱の災害歯科衛生士として登録しているとのことであった。

これらから BCP の作成は非常に重要である。災害時にも歯科医院や他の医療機

関も稼働させることは必要である。

水がないからといって歯科器材を動かさなくても、投薬や相談はできる。削る以外の仕事もたくさんあるので、歯科医院を稼働できる体制を計画としてつくっておくことは必要である。

トリアージはよほど大きな災害でない限り、歯科医師やコ・メディカルがする場面は少ないと思っている。避難されてきた方がどこに行けばよいのか高次の医療機関に搬送するべきではないかというトリアージの訓練は、全ての方が必要と考えている。

ここで、事務局より欠席者のご意見を紹介

委員より、災害時の歯科の救護は経験がないので、足立先生にご教授いただきたい。

委員より、歯科医師会の先生方には、ぜひ D-Komet（災害時神戸メディカルチーム）にご協力をお願いしたい。

会長：委員は防災士の資格をお持ちであるとのこと。ご意見をお願いしたい。

委員：9 日間の研修を受け、防災士の資格をとった。以前の足立先生のお話から、防災の分野では備蓄やトイレのことはよく知られているが、歯のことや口の衛生面をきちんとすることは大切であると理解した。一般の方や防災士の方にも認識を深めていただきたい。

委員：兵庫県看護協会では急性期において災害支援として派遣をしている。水がないところでの口腔ケアができるように、物品をそろえて派遣する。後々に食事や栄養面に影響がでてくるとことや誤嚥性肺炎予防の観点から、教育をして派遣している。

委員：兵庫県栄養士会は今回の訓練は参加していないが、長田区の災害医療フォーラムや垂水区の福祉フェアでは、展示や寸劇もして関わっている。

口のトラブルは被災後すぐではなくじわじわと発生し、飲み込めない、食べられないということがでてくると思っている。避難所が開設されれば、必要時は JDA-DAT（日本栄養士会災害支援チーム）に派遣をできるよう準備をしている。

先生：D-Komet の参画に関して、歯科医師会としてはどうですか。

委員：先日堀本会長より説明をしていただいた。DMAT が入る前の急性期に歯科的なことでお手伝いできることは少ないかもしれないが、トリアージもできることはしてほしいとの説明をうけたので、ご協力はしていきたい。9 区の歯科医師会にも具体的に隊員募集を募っているところである。

委員：歯科が超急性期にでる機会は少ないかもしれないが、0 でいいわけではない。例えば、気管挿管時に本当の歯か義歯かの判別や動揺歯への対応など、口に関することはそれなりにはあると思う。

薬剤師会や看護協会は D-Komet との連携は決まっていますか。

事務局：医師会の方からお願いにいたり、何名か登録されていると聞いている。

委員：長田区の災害時医療介護提供協議会は、もともと医師会の在宅部門の先生方から行政に問い合わせがあり発展をした。配慮を要する方の急性期の避難や医療的ケアに対して、条例で決まっていると思うが具体的な訓練はされているのか。

局長：要援護者の支援のための条例が約 10 年前に可決されているが、福祉避難所が設

置されるまでの期間を考慮し、7～8年前に神戸市独自で基幹福祉避難所をつくった。市内の特別養護老人ホームに呼びかけ、震度5以上の災害が起これば収容してもらうことにした。避難所にこられたときにヒアリングを実施し判断して、車をだしてもらい迎えにきてもらうところまで決めている。家から出られない方を迎えにいかないのかという問題があるが、災害時まずは自助、共助、最後は公助で、地域の方の助けも得ながら必要な方に基幹福祉避難所に避難してもらうということになっている。

委員：全国にさがしつけ基幹福祉避難所を設置するのは素晴らしいと思っている。
先日の長田区の災害医療フォーラムでも概要を説明されていた。要請がなくても自分たちで開設できるというのが増えていけばよい。福祉避難所の数は、この区でも不足していると思っている。

6. 報 告

報告1 フッ化物洗口による小学生のむし歯予防について

事務局より資料2-1「フッ化物洗口による小学生のむし歯予防」説明

委員：今後の改善点は、懇話会での検証を重ね、継続後2～3年で検証していく。まず始めていただき状況を確認したい。

委員：資料2-4にあるように、表題でしっかり位置づけしていただき嬉しく思う。
問題なく全校展開の方向で早く実現できるよう進めていってほしい。兵庫県全体に広めていけるようにいろんな形で発信をしてほしい。

委員：やっとここまできたという感じ。良い効果が子どもたちにでることを願っている。

ここで、事務局より欠席者の意見を紹介。

委員より、フッ化物洗口について1回量は飲んでしまっても大丈夫なので、安心して取り組んでいってほしい。議題とは違うが、要望として学校歯科医の視点で喫煙防止教育をできないか。煙草を吸う家庭の子どもはむし歯が多いとかあるので教育の中で歯科医師会からも説明をしてほしい。

報告2 オーラルフレイル対策について

事務局より資料3-1「オーラルフレイル対策について」説明

委員：大学教員の半数以上が協力参加している。効果検証をとのことであったので検者を統一して実施した。対象者はやはりフレイルが進行していたが、現在しっかりとトレーニングをつんでくれている。結果ができれば報告させていただく。

委員代理：老人クラブは、認知症とフレイル対策についての研修会が多い。オーラルフレイルは、コロナ後できていないが、今後オーラルフレイルも積極的にとりこんでいきたい。

報告3 70歳フレイルチェック・フレイル改善通所サービス

福祉局介護保険課より資料4-1「70歳フレイルチェック事業について」説明

意見なし

報告4 訪問歯科診療・訪問口腔ケア事業について

神戸市歯科医師会より資料5－1「訪問歯科診療・訪問口腔ケア事業報告」説明

委員：10年近く協力しており、件数が増えていることは評価できるが、歯科衛生士一人あたりの負担がふえており、そこは緩和していきたい。事業の本来の目的を明確にし、事業評価とあわせて今後の方向性を考えていく必要がある。訪問ができる歯科衛生士の育成に関しては、県の補助金をいただけたが非常に困難であると感じた。

報告5 口腔がん検診事業について

事務局より資料6－1「口腔がん検診事業について」説明

ここで、事務局より欠席者のご意見を紹介

委員より、口腔がん検診で疑いがあった方が、その後神戸大学附属病院を受診して口腔がんと診断され、手術してその後経過良好であるケースが数件あった。口腔がん検診は有意義であるため、今後も事業を継続していただきたい。